第15回JICE研究開発助成成果報告会

水災害リスク分析の最大外力設定の ための可能最大降水量(PMP)の推定

平成27年6月4日 国土技術研究センター

研究代表:鳥取大学大学院工学研究科 矢島 啓 共同研究:パシフィックコンサルタンツ(株) 橋本 健











■ X V S	対象	豪雨の選定	 ①対象流域と対象豪雨 2/2 ● あな対象
豪雨番号	洪水発生年	八斗島流量観測所で 観測された最大流量 (m ³ /s)	要因
1	2001/9/10	6784.95	台風第15号
2	2002/7/11	5972.05	台風第6号、梅雨前線
3	2004/10/9	2123.42	台風第22号、前線
4	2004/10/21	3728.92	台風第23号、前線
5	2006/7/19	3928.58	平成18年7月前線
6	2007/9/7	7755.77	台風第9号
			6



^{② WRFIによる豪雨の再現性 2/2} 豪雨の再現性									
	72時間雨量 (mm)			ピーク雨量 (mm/hr)			ピーク 発生時刻		
豪雨	実績	再現 計算	<u>再現</u> 実績	実績	再現 計算	<u>再現</u> 実績	実績に対する 再現計算の 発生時刻		
1	175.2	247.9	1.41	11.6	18.9	1.63	2時間早い		
2	159.2	237.2	1.49	10.9	15.4	1.41	13時間早い		
3	98.4	121.9	1.24	7.1	6.2	0.87	2時間遅い		
4	107.6	181.1	1.68	10.8	13.3	1.23	2時間早い		
5	225.8	188.3	0.83	9.9	10.6	1.07	1時間早い		
6	257.8	176.4	0.68	14.3	19.6	1.37	2時間遅い		
							8		

③気象条件が豪雨の時空間分布に与える影響 1/4 気象条件が豪雨に及ぼす影響 WRFの計算における初期条件,境界条件を変更						
ケース	変化要素	絶対変化量	備考			
1	なし	-	再現計算			
2		-30%	相対湿度を減少			
3		-10%				
4	相対湿度	+ 10%	相対湿度を増加 ただし,最大は100%			
5		+ 30%				
6		最大化	全層の相対湿度を100%			
				9		





















